

第 6 0 回
東 北 地 方 交 通 審 議 会
船 員 部 会 議 事 要 録

平 成 2 5 年 1 0 月 2 5 日
東 北 地 方 交 通 審 議 会
船 員 部 会 事 務 局

東北地方交通審議会

第60回船員部会

日 時 平成25年10月25日（金） 15:30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、村上部会長代理、清水委員、箭内委員
労働者委員 : 高橋（雅）委員、正路委員、野田委員
使用者委員 : 鶴本委員（欠席）、佐藤委員（欠席）、湯村委員

運輸局 : 本田海事振興部長、阿部海事振興部次長
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長
鈴木海事振興部船員労政課長、淀川労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について
(2) その他

配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（7月分）
- 資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料4 新規求人・求職数（全国）
- 資料5 有効求人・求職数（全国）
- 資料6 有効求人倍率（東北管内）
- 資料7 有効求人倍率推移（全国）
- 資料8 「めざせ！海技者セミナー in 仙台」開催結果概要
- 資料9 平成25年度船員労働安全衛生月間活動報告
- 資料10 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【海事振興部次長】

〔第 60 回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【部会長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。

お手元にある議事次第の議題（1）管内の雇用等の状況について、事務局から報告願います。

〔船員労政課長より前回の質問事項（毎月報告される数字の意味）に関する回答〕

【部会長】

そうすると、おそらく皆さんが知りたかったのは私も含め、成立状況とは東北管内の雇用状況をどう反映しているのかが分らなかったのだと思いますが、何を表わしていますか。

求人も求職もここで登録したという以外に管内であることの保証が無いわけですね。1つ。

それから、成立した時も管内の求職と求人が成立したという保証も無いわけですね。

そうすると、東北の求職と求人の数と成立状況の数というのは、東北地方の雇用状況の何を表わしていることになると考えているのですか。私達は何を受け取ればいいのですか。いつも頂く情報なのですが。

【船員労政課長】

数字としては、うちが取り扱った件数となります。なので、直接雇用情勢を反映された数字になっていないと言えます。

【部会長】

そうすると、私達は何を受け取ればいいのか。情報ですが、何だろうと昔から思っていたのですが。これで、景気が良くなった、悪くなったとか、雇用状況が良いとか、悪いとかの判断をしていいのか。東北管内の。

【海事振興部長】

端的に言うと東北運輸局の業務量でしかない。運輸局で取り扱ったという実績になります。

【部会長】

それを、私達は聞いて何を受け取ればいいのか。東北運輸局が忙しいとか、そのように考えればいいのか。船員の情報として。

【海事振興部長】

東北運輸局にこれだけの申し込みがあったということしかない。

【海事振興部次長】

システム上で業務量しか出せないのが、過去にこういった形で整理して、システムで出ないものをデータだけを落として組み直して表に作成している。

先生方に毎月報告している中で何を感じればということでは、管内でいうと事業者も少ないし求人も少ないので、管内で失業しているなり求職する人がこれだけいます。単純に増えれば当然不況だ、減っていけば好調か程度のイメージになると考えています。

ただし、全国で見た場合いろんな職種、会社がある中で全体の数を見れば、例えば、商船なり、漁船なりが今どういう状況なのかが、数の上げ下げを見ると状況が言えるのかと思います。

【清水委員】

全国的には言えますね。全国的な状況としては。

【部会長】

東北というふうに区切れば、情報をもらおうと。

【海事振興部次長】

東北だけで見れば、なかなかそういう状況は読み取れない部分もある。しかし、皆さんにお示しできるデータがこれしかないということです。申し訳ありませんが、これ以外のデータが無く、業務量の中での増減を見ていただくと多少なりとも状況とか見えるかと思います。

【清水委員】

私らから見ると、漁船の方は大体東北は東北の船に乗るという傾向が強いので、東北管内のとき漁業だけは東北を見ます。商船の方は、正直言って東北のデータは見ない。全国でみんなあちこち動きますので、全国で比べるしかしょうがないだろう。

【部会長】

という、有力な読み方。

【高橋委員】

私的には、東北管内に住んでいる船員の方がどういうふうに動いているかということだと思います。そう思って私は聞いています。

【正路委員】

私はですね、求職に関しては殆ど在住者が求職活動しているだろう。求人に関しては、先生（清水委員）が言ったように汽船関係については東北管外の数字がかなり影響しているだろう。漁船に関しては、高橋委員から言われたような内容だと思っています。やはり求職者の方がメインになっているかなと思っています。

【部会長】

はい、分かりました。ありがとうございます。

読み方が確定したので、どこかに書いておいてください。求職者は東北の方々の求職状況一般をある程度反映しているであろう。そして、求人については漁船のみは一定程度反映しているであろう。そして、成立については運輸局の業務量を反映しているということで、よろしいでしょうか。という読み方だそうなので、判然としていない方はそういうことで確認していただいて、今後誤解の無いような形で状況を把握に努めていただければと思います。大変な労力をいつも使ってやっていただいているので、一度確認したいなと思ったことでした。

どうもありがとうございました。

【船員労政課長】

もう一点ですね、湯村委員から四国において実施された水産高校の就職希望の情報提供の関係について。四国運輸局に照会したところ、昨年12月に内航船員就職懇談会がありまして、その中のメンバーに内航船の船主さんと水産高校の先生方もいて、水産高校の先生から学生に対しての内航船員の求人が少ないという話があって。それを受けて、情報提供をして求人数を増

やましようということで、卒業予定者について就職希望のリストを水産高校の情報を得て作成して、内航の協議会に送って希望のある会社が学校に新規学卒者の求人票を出して募集するという形にしたということです。東北でも出来ないかという話でありまして、過去の書類を見たら平成20年度あたりまでは同じような形をとっているのが見つかりまして、ここ5年ほどやっていないのですが、水産高校の意向も確認しながら可能であれば来年以降検討していきたいと思います。

前回ご指摘を受けた事項は以上になります。

〔船員労政課長より資料1～7に基づき報告〕

【部会長】

どうもありがとうございます。質問等はございますでしょうか。

より詳しくなって、またツボの押さえ方もわかるようになりました。

【高橋委員】

1つ。東北管内の取り扱いの求職のほうで鯉鮪が今回10名ほど増えています。その内容はどのようなことですか。

【船員労政課長】

求職の内訳ということですか。

【高橋委員】

内容的なこと。船に係船したのか、たまたま、各船1人ずつ下船したのか。

【船員労政課長】

状況までは確認していないのですが、件数で言いますと気仙沼が10件ということで、ずいぶん多い。

【高橋委員】

普通に辞めたという理解でいいんですか。それとも、船に係船して退職したとか、失業したとか。

【船員労政課長】

会社都合が4件、自己都合4件なので、特段何か大きなことがあったということではないと思います。

【高橋委員】

会社都合というのはどういうふうな。理由として。

【船員労政課長】

退職理由が会社都合、自己都合、あるいは期間満了ということですか。

【高橋委員】

はい、わかりました。

【部会長】

はい。ほかに。

【野田委員】

資料1の8ページの年齢区分別・管轄区分別ですが、これは全国の数字ということでもいいんですね。管内別ということですから。

【船員労政課長】

これは成立した、商船でいえば2名の方の平均年齢です。

【野田委員】

東北に求職を出してしている人が2名決まると、8月1ヶ月で2名就職が決定した。
東北在住の方が。

【船員労政課長】

それは、そこまでのデータではない。東北で間違いないとは言えない。

【海事振興部次長】

支局事務所に聞かないと最終的にこの1名が居住者か確認ができない。先ほども説明しましたが、業務統計データから落としたもので、詳細は確認していないので、必要であれば後で確認して報告します。基本的には、在住者が申し込みに来ていると思います。わざわざ他所からうちに来て申し込みをして就職とは考えられません。たぶん在住者だと思いますが、本当にそうかと言われると確認が必要です。

【部会長】

野田委員よろしいですか。よく分かるようになりました。

【湯村委員】

ついでに、今のことについてですが。管轄別の東北であったり、関東であったりという毎回ですが、管轄別というのは求人した企業が求人をした場所ということ、それとも東北管内に求人をしてきた企業がたまたま関東だったという考え方が。関東に求人した分がこっちで受付た求人。

【海事振興部次長】

先ほどもお話ししましたが、キオスクで探してここに行きたいと言えば紹介状を出します。

なので、必ずしも管内の事業者で求人をここに出したとか、管外からうちに出しているとかではなくて、データで見られる部分を本人が希望して紹介して決まったもの。

【船員労政課長】

関東は、関東で受付した求人です。

【高橋委員】

求人の申込みは会社が地元の海運局とかそこで受付したところがこれに出ている。

【海事振興部次長】

データで流れたものを見て希望すればそこに紹介しますので、それで決定すればうちで決定が1となる。

【高橋委員】

船員が最寄りのところに行って、それで局の方に紹介してくださいということ。

【海事振興部次長】

というものもあれば、出さないでいく人もあります。

【部会長】

よろしいですか。

おそらくは、求職の場合には登録地原則であろうと、成立の時はよく分らないけれども、こちらの方が成立した所にそちらの方に就職したであろうということが分かるけれど、本当のところはよく分からないと。全体としては、その方向で考えたらいいだらうと、こういう話ですね。詳しく知りたい場合には、一件一件あらうしかない。

はい、どうもありがとうございます。

よろしいでしょうか。もっと深く入って行って知りたいということですか。

【高橋委員】

私の方は分かっていますから。

【部会長】

湯村委員はよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

ありがとうございます。それでは、ほかにありませんか。無いようでしたら、ご承認いただいたということで先に進めてよろしいでしょうか。

(2) その他の事項

【部会長】

続きまして、議題（2）その他の事項に入ります。

事務局のほうから最低賃金専門部会の中間報告、そして資料の8、9に関する報告、よろしくお願いたします。

【海事振興部次長】

それでは、私から最賃部会のほうの経過をご報告申し上げます。

まず、23日水曜日ですが、第1回の東北漁業（大中型まき網）の部会を開催しました。

その中で、部会長につきましては、村上先生、それから部会長代理には箭内先生ということで議事は、事務局から諮問の理由、それから関係する資料につきまして説明をいたしまして、その後、使用者側委員、それから労働者側委員から基本的な意見をお聞きしました。それぞれ意見が出され、労働者側からは、アップをお願いしたい。使用者側については、検討したいということで終わっております。最終的には、第2回の部会で決定をされるということになっております。部会につきましては、11月20日の水曜日ということでございます。

昨日は、第1回の沖底の部会が開催され、部会長には長谷部部会長、それから部会長代理には清水委員に決定しました。その後の部分につきましては、先ほど申したまき網と同じで、諮問の理由、それから諮問に関する経過を示す資料について説明をいたしまして、その後、労働者側委員と使用者側委員からご意見を賜った。ほぼ内容的には労働者側はアップをお願いしたこと、使用者側につきましては検討をしたいとのことで、第2回で結論を出すとの方向で終わっております。沖底につきましては、来月11月18日に開催する予定となっております。

以上でございます。

【部会長】

この点に関して、ご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

では、次回に妥結の可能性を目指してということですね。

【海事振興部次長】

円満に解決というか、決まるようにしたいということですか。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、そのほかに資料の8、9に関してお願いします。

【船員労政課長】

資料8のほうを説明します。

毎年開催しております「めざせ！海技従事者セミナーin仙台」を今年も開催いたしました。9月

28日土曜日に、仙台駅東口のイベントホール松栄で開催いたしまして、参加企業が12社、そこに記載されたイイノガストラנסポートさん他、東北管内では、興和海運様に参加していただきまして。求職者のほうにつきましては、合計69名、その内訳として、在学中ということで59名になっておりますが、このうち宮古の海技短大の生徒さんが55名、あと宮城水産と八戸水産からそれぞれ2名の4名で、生徒としては59名、あとは離職中の船員さん、あとは在職中の船員さんということで、合計で69名の参加がありました。

面接と、あと学生さんについては、企業説明という形をとりましたけれども、面接が11件で、企業説明が164件、合計で175件ありました。当日の面接11名の内訳ですけれども、当日は11名全員が保留になっております。後日結果のほう空欄になっておりますが、本日連絡がありまして1名採用になったという情報がありました。今のところ11名中1名は採用ということになります。

【部会長】

ありがとうございます。

【船員労働環境・海技資格課長】

それでは、資料9を説明します。

平成25年度の船員労働安全衛生月間につきまして報告をさせていただきます。

船員労働安全衛生月間は、船員の労働災害の防止を目的といたしまして、毎年9月に全国で一斉にさまざまな取り組みが行われております。昭和32年の第1回から数えまして、今年度で57回目になります。東北運輸局管内では9月の月間を中心にいたしまして、7月、8月のサンマ8月の沖合底びき船の出漁前の訪船指導ですとか、あるいは9月の月間中の訪船指導におきまして、作業時における死傷災害、海中転倒、海難による死亡災害の防止対策の徹底などを重点事項といたしまして、運輸局、支局、海事事務所職員、各地区の船員災害防止協議会指導員が構成いたしまして、作業環境の整備状況とか、救命設備の点検状況の確認をいたしまして、作業員に救命胴衣の着用の徹底、安全標識の表示、水質検査の実施などに関して指導いたしております。

今年度は、東北管内において226隻に訪船をして指導をしております。内訳は、この活動報告に書かれているような内容でございます。

また、そのほかに安全に関するポスター2,000枚、標語のビラ850枚、しおり800冊の配布なども行っております。

その他の取り組みといたしまして、2番のところですが、結果の取り組みといたしまして、9月12日に塩釜において開催されました船員災害防止東北大会、これは船員災害防止協議会東北支部の主催で開催されたものでございますけれども、船員の災害防止に貢献されました事業主だとか、個人に対する支部長表彰とか、あるいは記念講演が行われまして、船員災害防止大会宣言というものもありまして、船員の災害、疾病の減少のために家族一体となって活動しているということが宣言されたということでございます。

3.のほうですけれども、カーフェリー「きたかみ」の乗組員の訪船指導ですが、太平洋フェリーとそれから液済会病院のご協力をいただきまして、船員の疾病の減少に関しても取り組みを推進していくということです。内容は記載されているとおりですけれども、医師による健康相談とか、健康のフォローを実施いたしております。

次に、裏面のほうですね。まとめておりますけれども、東北各地において安全衛生講習会、サバイバルトレーニングといったものも実施しております。事故に直面したときに、冷静に判断して、行動することによって、自分の命を守る、そういった訓練ですね。そういったものを実施しております。実施内容は、この表に書かれているとおりですけれども、合計で186名が出席してお

ります。労働環境の改善といいますが、そういったものが非常に重要でありますし、雇用、就職にも大きく影響するのではないかと考えております。

安全衛生月間に関する報告は以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

「めざせ!海技者セミナーin仙台」の報告と、安全衛生月間活動の報告でした。何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

どうもありがとうございました。

【船員労政課長】

追加でちょっとだけよろしいでしょうか。

【部会長】

はい、どうぞ。

【船員労政課長】

先ほど、質問のあった資料1の成立状況で、就職した人が何処の出身の方かというのがありまして、先ほどそこまで調べていませんということでしたが、今、実は調べてきまして、7ページ目です。本局の漁船1件につきましては、就職者の出身は東京都、岩手の商船の就職者は岩手県の方が就職されました。気仙沼の漁船については、宮城県の方が就職されました。石巻の商船の就職の方は宮城県の方が就職をされました。漁船のほうの2件はどちらも宮城県の方が就職したということです。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。よろしいですか。どうもありがとうございました。

ほかにありませんでしたら、では、ご承認いただいたということでいつものように情報提供ということで情報交換を行いたいと思いますけれども、労働者委員のほうからいかがでしょうか。

【高橋委員】

では、私から、新聞情報の1枚目にあります宮城水産高校の地域連携推進会議、こちらに私も出席しましたので、詳しくお話ししたいと思います。

9月24日に行われまして、総勢30名の方が集まりました。地域関係者では、東松島市商工会、石巻観光協会、石巻地域中学校校長会。市町村関係では、石巻市、女川町。水産関係、船舶関係につきましては、宮城県漁業協同組合、石巻魚市場、渡波水産加工漁業協同組合、石巻市水産加工業組合、石巻料理組合、あと宮城県沖合底びき網漁協と。大学関係では、石巻専修大学、宮城大学。県の関係で、宮城県東部健康福祉事務所、宮城県東部地方振興事務所、宮城県水産技術総合センター、あとは宮城県教育庁高校教育課というところの方々が集まってお話ししました。

学校のほうからは、各類型ごとの地域とのかかわりの説明がありまして、その後、自由討議ということで、皆さんから意見交換ということになりました。出ている意見の中では、やはり地元の企業でこの卒業生を活用したいというのが主でありまして、それで、できれば職場体験をしていただければと。沖合底びき船のほうでは、実際沖に行って、乗船してもらいたいという話も出ていました。あとは水産加工関係では、大分震災以降、優秀な機械が入りまして、それらの世界に1つか2つかないような、そういう機械も入っている。そういうものを生徒さんに見せることによって、地元の企業に就職というのも活用になるのではないかという話もありました。

今後ですけれども、12月に今年度の2回目の会議を開いて、その中で、もし各類型の教科ごと

の分科会みたいなものもつくるようになるのではないかとということで終わっています。

【部会長】

ありがとうございます。ほかにないですか。

【高橋委員】

あともう1件ですけれども、運輸局さんのほうにお願いなんですけれども、19トン未満の漁船の場合、漁業の種類、操業区域によって船員法適用、労働基準法適用となると思うんですけれども、その中で、明らかに船員法非適用の場合の条件がありますよね。5海里等操業日数が年間30日未満である場合ですね。これは労働基準、船員法適用外というのも、海運局が認めて、証明書を出していると思うんですけれども、ある一部ではもう30日以上、年間同じ操業をするわけですよね。そうすると5マイル以上30日を超えたこの日数操業するわけですよ。それで、適用の申請自体が1回船につく申請なんですよね。だから、その船に1回ついてしまって、業種を変えれば非適用がずっと続くわけですよね。船が無くなる限り。あとは船主さんがこの適用から外れますよと申請しない限りずっと残るわけですよね。

【船員労働環境・海技資格課長】

何か内容が変わったら当然申請しておかなければならない。

【高橋委員】

ただ、この明らかにこの申請する時点で、もうそれ適用にならないと分かるわけですよね。何か、聞く話には、書類が上がってくればただそのまま書類で残ってしまうと。直に船主さんからはこの聞き取りも何もしないで、進んでやるというふうなことがありますので、そこは聞き取りなりして、それなりにこれに合った適用の仕方をして欲しいというのがうちの要望です。よろしくお願いたします。

【部会長】

行政指導のほうをどうぞよろしくお願いいたします。

ほかにございますか。

【正路委員】

1点、新聞情報では無かったもので。震災で被災した船舶で、八戸で1隻だけ残っていた大型のトロールですが、それが今回めでたく1航海、操業に行ってまいりました。ただ、操業海域は天皇海山、ミッドウェーの方で、ツボダイを狙って行ったのですが、漁的には量も少なかった。魚もいなかったというようなことで、今週の21日に八戸に入港してまいりました。来月初めあたりになると思うんですが、南西インド洋に出航予定です。その船は欧州型トロールということで日本で初めてそういう形の船を造ったということです。

【部会長】

新しい船ではないですね。

【正路委員】

新しい船です。

【部会長】

新しいほうですか。それで震災を乗り越えた。

【正路委員】

いえ、震災で船が被災されて、それで造船所は静岡のほうで造っています。

【部会長】

新船ですね。これは技術革新だからすごいことなんですね。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。雇用側でお願いします。よろしいですか。

その他ございますでしょうか。

【湯村委員】

ちょっと1つだけ。高橋委員からの情報の1ページで、船舶調理師というのが免許を取得できる科が新設できるということで、これは我々にとって非常に嬉しいことで、どっちかという廃止されるケースが多かったんですね。それで、調理師免許というのは船によっては絶対必要なんですけれども、最近はそのいったことを学ぶ場ありませんし、講習で取得できるぐらいですけれども、その講習も減ってきて、一体どうしたら資格が得られるんだという状況になりつつあったところで、こういった記事を見て、ちょっと安心したんですけれども。一方、経団連のほうから要望が出されているようなんですけれども、限定近海という航行区域を限ってですけれども、限定近海の船舶については、調理師免許は要らないんじゃないかと。要らなくてもいいよということなので要望が出ているというのが今あります。それは調理師免許を持っている人が少ないので、採用するにも非常に苦労していると思います。

【部会長】

はい、どうもありがとうございます。ほかにかがででしょうか。よろしいですか。もし無ければ、今日はこれで終了とさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

事務方のほうからよろしく願います。

◎閉 会